

日本の幸福度の低さにおける文化の影響：理想の幸福度による検証

高橋義明¹

要約

幸福度は政策当局者にも利用されるようになり、世界幸福報告書の公表など国際比較も盛んになっている。世界幸福調査では各国の幸福度を6つの要素で説明しているが、幸福度平均値の差はむしろ残差で生じている。残差が文化差を示すのかを検証するため、現在の幸福の投影元として「理想（アイデア）の幸福」による測定を試みた。

日本での結果からは不幸せをプラスに評価し、高い割合で「中位の幸福度」を理想とする傾向があった。幸福度（現在）と理想の幸福度の得点差を考慮して幸福度（現在）を調整し、欧州各国の幸福度（現在）に関する頻度分布を利用してクラスター分析を行うと、日本はデンマークなど幸福度平均値が高い国と同じクラスターに分類された。以上から、今回提案された幸福度の測定方法を用いると、「アジアの人々の幸福度が低い」との悲観的な結論はえられず、むしろ北欧や中南米の人々の幸福度と差がないと解釈できることが明らかになった。

JEL 分類番号： I31, D63, C46

キーワード： 幸福度, 理想の幸福度, 国際比較, 残差, 日本

1. 目的

幸福度は政策当局者にも利用されるようになり、世界幸福報告書の公表など国際比較も盛んになっている。世界幸福調査では各国の幸福度を6つの要素で説明しているが、幸福度平均値の差はむしろ残差で生じている。例えば、日本とオランダは平均値で1.53の差、日本とコスタリカは1.16の差があった。しかし、6つの要因で説明できる部分を比べると、日本とオランダは0.47の差しかなく、日本とコスタリカでは逆に0.34だけ日本が多い。そうすると残差が何を示しているかが重要になる。可能性として挙げられるのは、6つ以外の要素の影響、回答バイアス、文化の影響である。

本研究では残差が文化差を示すのかを検証するため、現在の幸福の投影元として「理想

¹ 公益財団法人中曽根康弘世界平和研究所 ytaka2001@hotmail.co.jp

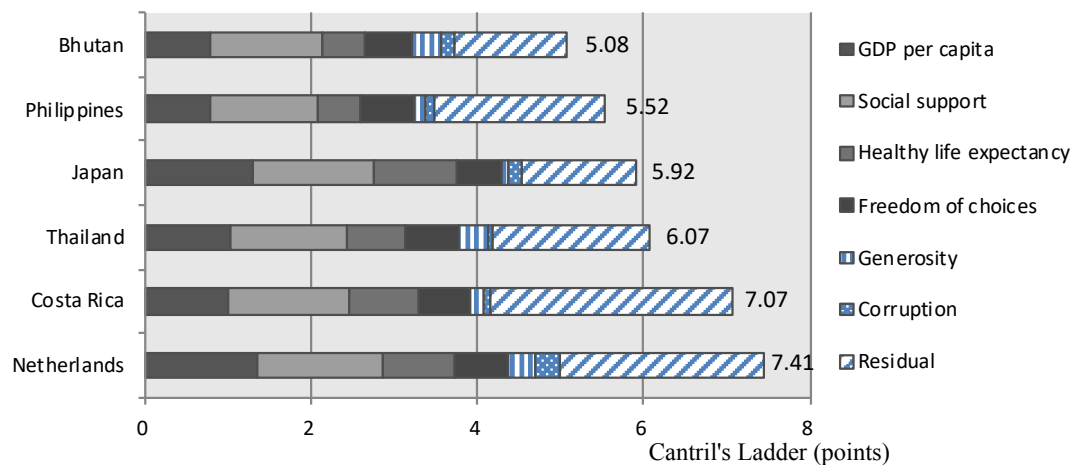


図 1：国別幸福度（平均値）と要因寄与

（アイデア）の幸福」による測定を試みた。「理想」はプラトンのアイデアの日本語訳とされ、アイデア論では理想の探求が物事の本質だとされている。つまり、幸福の概念化でも現在の幸福度の投影元である「理想」の幸福度が重要になる。理想の幸福度と現在の幸福度の関係を踏まえると、幸福度の評価に当たっては理想の幸福度と現在の幸福度の差が重要になる。例えば、理想の幸福度が 8 だと思う人が現在の幸福度を 10 だと考える場合には現実の幸福が理想を上回っているが、現在の幸福度を 6 だと答えた人は理想よりも低いことになる。一方、理想の幸福度が 6 でよいと思っている人にとって現在の幸福度が 6 である場合には悪い評価をしている訳ではない。その点を踏まえて、理想と現実のギャップを勘案して、「幸福度」を調整すると各国の頻度分布はほぼ同じ形状になることを明らかにする。

2. データ

2.1 大学生調査

1 つ目のデータは関東近郊の大学の学生に対して 2014 年と 2015 年の 2 回行った有意抽出のオンライン調査の一部である。対象は学生に限られるが、本調査のサンプル数は 477 と分析に十分な数を備えているため、本研究に利用した。

2.4 茨城県民調査

2 つ目のデータは 2014 年 11 月初旬から 12 月初旬に実施した「茨城県での生活に関する調査」2014 である。対象者の選定は茨城県 5 地域から 2000 名を抽出できるように層化二段無作為抽出で行った。選挙人名簿から 2000 名を抽出し、最終的にインタビューに協力してもらった回答者は 406 名である（有効回答率 20.3%）。

2.3 全国インタビュー調査

3つ目のデータは2015～2016年に筆者らの研究グループが実施した半構造型面接調査によるものである。対象者の選定に当たっては全国51地域から4名ずつの計204名をインタビューできるように層化無作為抽出法で選定されている。選挙人名簿から全国で1340名を抽出し、最終的にインタビューに協力してもらった回答者は160名である（有効回答率12.1%。男性82名、女性78名、平均年齢54.88歳）。2015年国勢調査結果から算出した20歳以上人口の平均年齢が53.49歳と比べるとかい離は小さかった。

2.4 若年層インターネット調査

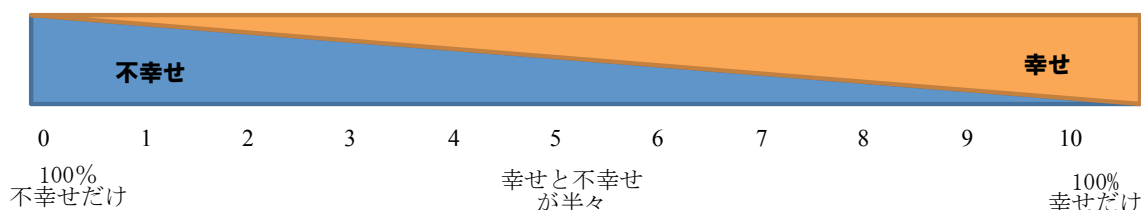
4つ目のデータは2016年2月に筆者らで実施した登録モニターに対するインターネット調査の一部である。インターネットという媒体を利用するため、インターネット利用が限られる高齢者層を除き、対象年齢は2016年2月時点で25～44歳であった者に限定している。本調査のサンプル数は4,589と分析に十分な数を備えているため、本研究に利用した。

3 変数

上述の通り、サンプル数、調査手法、対象者（年齢階層）が均一ではないが、「理想（イデア）の幸福度」を質問に含めた調査が行われている。分析で使用した主な変数は以下の通りである。

幸福尺度として「幸福度」を利用した。「現在あなたはどの程度幸せですか。」という質問に対して「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として回答してもらった。下のように「あなたの理想の幸福はどのような状態か」を11件法で聞いている。また、大学生調査および全国インタビュー調査では追加の質問項目としてなぜそのような状態を理想と考えたか、その理由を自由回答として訊ねている。

この質問は理想の幸福感に関する質問です。一般的に人は幸せであるべきと思いますか。思う場合、どのくらい幸せであるべきと思いますか。「不幸せだけを感じている状態」を0、「幸せと不幸せが半々くらい」を5、「幸せだけを感じている状態」を10として0～10から回答してください。いずれかの数字を1つだけ選んでください。



4 回答結果

4.1 幸福度（現在）

まず各国の「幸福度（現在）」についてみると、回答結果は図2の通りである。茨城県では5点（21.7%）と8点（23.8%）がほぼ同じ、若年層では5点が21.3%と最も多く、7点が16%、8点が14%と双曲型の分布になっていた。大学生と全国は似ており、8点、7点が多く、5点は10%以下にとどまり、比較的欧米に近い形となった。平均値をみると、大学生6.75、茨城県6.69、全国7.37、若年層5.74となった。

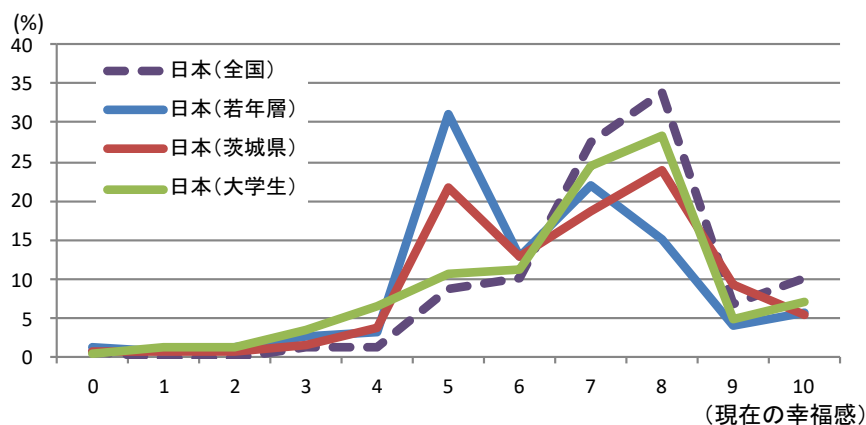


図2：現在の幸福度

4.2 理想の幸福度

次に理想の幸福度について結果をみてみると、図3の通り、大学生36.8%、茨城県35.8%、全国29.2%、若年層43.8%と高い割合で中位（5又は6）を選ぶ傾向が確認された。

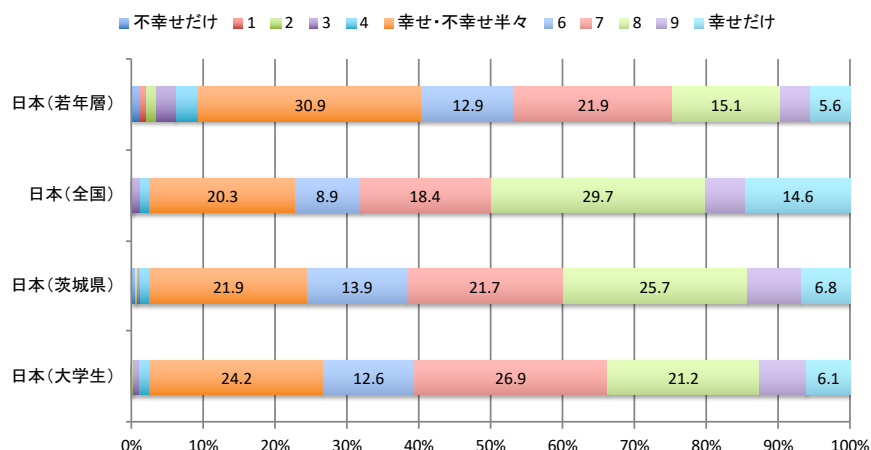


図3：理想の幸福度

4.3 幸福度と理想の幸福度の相関

最初に述べた通り、幸福度が低かったり、高かったりする理由として回答バイアスが考えられる。回答バイアスがある場合、例えば、中間値を取る者はいつも中間値を取るので相関値が高くなると仮定できる。一方、それぞれの調査の個票データから「幸福度」と「理想の幸福度」の相関係数をみてみると、大学生、茨城県、全国、若年層はそれぞれ 0.222、0.524, 0.449, 0.378 と相関は強くなかった。以上から回答バイアスとは考えられない。

5 理想の幸福度の理由

それではそれぞれの対象者はなぜそのような状況を理想と考えたのだろうか。全国調査、大学生調査では理想の幸福度を選択した理由を自由回答で尋ねている。以下では全国調査の自由回答をテーブル起こしし、テキスト化したものをデータとしてテキストマイニング分析して特徴を明らかにしたい。分析は KH coder 3 を利用した。

5.1 回答文言頻度の比較

まず単純に何人の者がある文言を口にしたかを比較してみた。同じ人が同じ文言を複数回口にしても 1 回とカウントし、結果として「人」「不幸せ」を口にする者が多かった。

5.2 対応分析

次に理想の幸福度で何を理想としたか、回答と理由として述べられた文言の関係を明らかにするために対応分析を行った。対応分析とはクロス集計の行プロファイル、列プロファイルを利用して統計的距離（カイ二乗距離）を求めることで構造的な位置関係を単純化する手法である。配置された位置に近いほど類似していることを示している。

口にした文言を理想の幸福度の選択肢回答でクロス集計した上で対応分析を行ない、行プロファイル、列プロファイルから成分 1，成分 2 を求めて 2 次元で表した結果が図 4-19 である。日本（全国）では 7、8、9 がほぼ重なり合い、同じような文言（「幸福度」「不幸せ」「良い」）などが口にされていたことが分かる。また、5（幸せと不幸せが半々）も 7～9 と近くに配置され、比較的似たような文言が口にされていた。なお、5 に近い文言には「人」「苦勞」「分かる」などが配置されている。一方、4 はかなり外れた位置に配置されており、他の選択肢とは違った文言が口にされていたと考えられる。つまり、日本人の場合、5～9 と 4 以下で大きな評価上の境界があると考えられることができる。

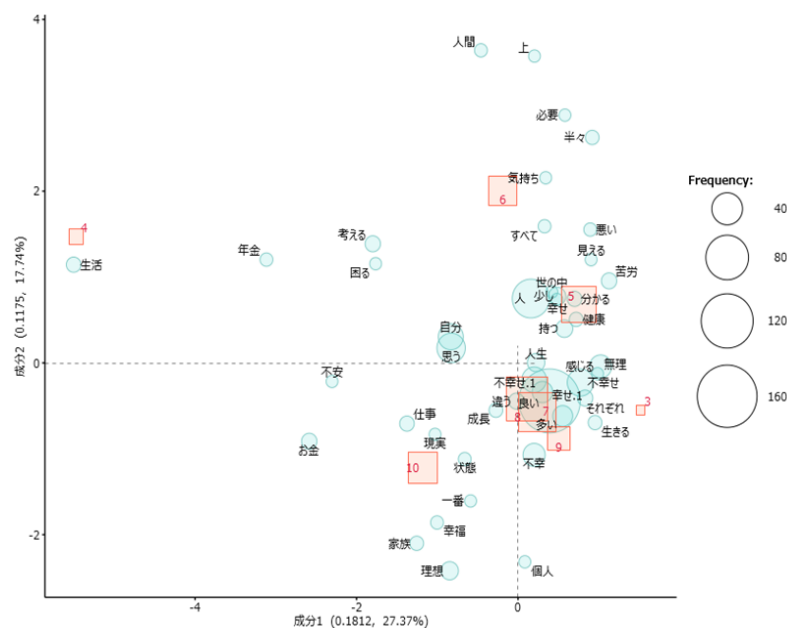


図 4：理想の幸福度の理由（対応分析）

5.4 理想の幸福度を利用した幸福度（現在）の修正の可能性

理想の幸福度と現在の幸福度の関係を踏まえると、幸福度の評価に当たっては理想の幸福度と現在の幸福度の差が重要になる。例えば、理想の幸福度が 8 だと思える人が現在の幸福度を 10 だと考える場合には現実の幸福が理想を上回っているが、現在の幸福度を 6 だと答えた人は理想よりも低いことになる。一方、理想の幸福度が 6 でよいと思っている人にとって現在の幸福度が 6 である場合には悪い評価をしている訳ではないと解釈できる。そこで日本（若年層）の現在と理想の幸福度が同一の場合に現在の幸福度を 8 として計算し直した。理想の幸福度で現在の幸福度を修正するとアジア諸国も欧米に特有の右非対称型に近づく。

欧州社会調査では本研究と同一の「幸福度（11 件法）」を尋ねている。そこで理想の幸福度による調整を行った後の頻度分布と欧州社会調査最新個票データ（第 7 回）を利用してクラスター分析を行った。樹形図の切断（分類数）を検討すると Psuedo t2 検定など多くの統計量で 2 つのグループが妥当とされた。その結果、理想の幸福で調整した JP1（日本（全国））、JP2（日本（若年層））全てが幸福度の最も高いデンマーク（DK）、スイス（CH）、ノルウェー（NO）、フィンランド（FI）、スウェーデン（SE）などと同じグループに分類された。

以上から、理想の幸福度によって幸福度（現在）を修正することの有効性が確認された。